

循環器科

■齋藤 滋 副院長, 循環器科部長

日本心血管インターベンション治療学会専門医認定医制度指導医・専門医・認定医,
日本心臓病学会・上級臨床医 (FJCC),
日本循環器学会認定循環器専門医,
日本内科学会認定内科医,
FACC (米国心臓病学会正規会員)
FSCAI (米国冠動脈造影治療学会正規会員),
FAPSIC (アジア太平洋心血管インターベンション学会正規会員),
日本心臓リハビリテーション学会,
臨床修練指導医認定医,
循環器病学

■赤坂 武 循環器科部長

Sanford-Burnham Medical Research Institute 客員研究員, 日本循環器学会, アメリカ遺伝学会,
ニューヨーク科学アカデミー

■高橋 佐枝子 循環器科部長

米国心臓病学会正規会員(FACC),
日本循環器学会循環器専門医,
日本内科学会内科認定医,
日本心血管インターベンション治療学会認定医,
臨床研修指導医,
日本心臓病学会, 日本不整脈心電学会,
日本心臓リハビリテーション学会

■松実 純也 循環器科部長

日本フットケア学会評議員,
日本循環器学会循環器専門医,
日本内科学会総合内科専門医,
日本心血管インターベンション治療学会専門医,
植込み型除細動器/ペースングによる心不全治療
研修証取得,
Fellow of Asian Pacific Society of Interventional

Cardiology (FAPSIC)/日本心臓病学会

■田中 穰 循環器科医長

日本循環器学会循環器専門医,
日本内科学会総合内科専門医・指導医,
日本心血管インターベンション治療学会専門医/
関東甲信越支部運営委員,
日本高血圧学会高血圧専門医, 米国内科学会上級
会員(FACP),
日本周術期経食道心エコー委員会認定医,
医学博士

■村上 正人 循環器科医長

日本不整脈心電学会認定不整脈専門医,
日本循環器学会循環器専門医,
日本内科学会内科認定医,
日本心血管インターベンション治療学会専門医,
植込み型除細動器/ペースングによる心不全治療
研修証取得, 臨床研修指導医, 医学博士

■杉立 和也 循環器科医長

日本心血管インターベンション治療学会専門医,
日本循環器学会循環器専門医,
日本内科学会内科認定医,
植込み型除細動器/ペースングによる心不全治療
研修証取得, 日本心臓病学会,
日本不整脈心電学会

■水野 真吾 循環器科医員

日本循環器学会循環器専門医,
日本内科学会内科認定医,
日本心血管インターベンション治療学会専門医
日本周術期経食道心エコー委員会認定医,
臨床研修指導医, 日本不整脈心電学会,
日本心臓リハビリテーション学会

■山中 太 循環器科医員

日本循環器学会循環器専門医,

日本内科学会内科認定医，
心臓リハビリテーション指導士，
日本心血管インターベンション治療学会専門医

■和田 匡史 循環器科医員

不整脈専門医，日本循環器学会循環器専門医，
日本内科学会内科認定医，
日本心血管インターベンション治療学会認定医，
植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療
研修証取得，医学博士

■古橋 杏輔 循環器科医員

日本内科学会内科認定医，
日本循環器学会循環器専門医，
日本心血管インターベンション治療学会認定医，

■宍戸 晃基 循環器科医員

日本循環器学会循環器専門医，
日本内科学会内科認定医，
日本心血管インターベンション治療学会認定医，
植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療
研修証取得，臨床研修指導医，
日本心臓病学会，日本不整脈心電学会

■飛田 一樹 循環器科医員

日本循環器学会循環器専門医，
日本内科学会内科認定医，
日本心血管インターベンション治療学会認定医，
日本周術期経食道心エコー委員会認定医，
日本不整脈心電学会，日本心臓病学会，
日本小児循環器学会，日本成人先天性心疾患学会

■森山 典晃 循環器科医員

日本内科学会認定医，
日本心血管インターベンション治療学会認定医，
日本循環器学会，日本心臓病学会，
日本救急医学会

■落合 智紀 循環器科医員

日本内科学会内科認定医，

日本心血管インターベンション治療学会認定医，
日本循環器学会

■倉田 征昭 循環器科医員

日本内科学会，日本循環器学会

■高田 琢磨 循環器科医員

日本内科学会内科認定医，日本循環器学会，
日本心血管インターベンション治療学会認定医，
日本不整脈心電学会

2015年 循環器内科展望

齋藤滋が当院の第一号職員として赴任したのは、1988年10月1日に開催された湘南鎌倉総合病院設立準備委員会当日でした。この会より一ヶ月を経て、当院は11月1日に開院しました。このように文字通りゼロからスタートした循環器内科ですが、私たちは、毎年365日、毎日24時間体制で循環器疾患の救急医療に最高の技術と設備を持って邁進しながら通常の循環器診療をも地道に行ってきました。さらに、このような日常循環器内科診療の中から世界に向けて医療を発展させるべく医学論文を発信することをモットーに邁進してきました。このように最初1人で始まった当科ですが、現在では湘南厚木病院、東京西徳洲会病院、札幌東徳洲会病院、湘南藤沢徳洲会病院を含め広範な地域における循環器診療および臨床研究に日夜奮闘しておりますし、鎌倉市医師会、逗葉医師会、藤沢市医師会そして横浜市医師会ともお互いに緊密に連携して地域医療を積極的に推進しております。

2010年に移転新築となりました新病院では、心臓センターとして外来・病棟・検査・治療が1つのフロアに機能的にまとめられた効率的な診療・研究そして研修体制が確立されています。また、JICA（国際協力機構）との共同プログラムを行い、外国人医師研修生も積極的に受け入れています。さらには、

国際的医療評価組織であるJCI(Joint Commission International)の認証を取得している当院では、多くの外国人患者さんも受け入れています。湘南鎌倉総合病院循環器内科は、冠動脈インターベンションの世界では既に世界中の誰しもうかが知る病院となっておりますが、これに加えて、日本国内でも先駆けて2012年より治験施設として開始した経カテーテル的大動脈弁植え込み術 (TAVI)により、外科的治療が困難な重症大動脈弁狭窄症患者さんに対しても有効な治療法を提供しています。また、現在日本国内では数施設でしか行うことができない先端医療分野である、重症僧帽弁閉鎖不全に対するカテーテル治療であるMitraClipをも行い、これらの手術困難な患者さんも助けることができます。また、不整脈治療部門においては年間500例を超える患者さんに対してカテーテル・アブレーションを行い、不整脈で苦しむ患者さんの役に立ち、この症例数では神奈川県下でもトップレベルの症例数であります。さらに、他の施設で植えこまれたペースメーカーや植込み型除細動器 (ICD) や、心室同期療法 (CRT) の電極不良の結果、時には不良電極を心筋より抜去し、新たな電極を植えこむ必要がありますが、この時に必須のレーザー電極抜去に関しは、神奈川県下で唯一の認定施設となっております。これらの積極的活動を通じて今後とも世界をリードする臨床研究を行い、これにより世界の医学をリードし、全世界の循環器疾患に悩むより多くの患者さんを助けると共に、次世代の若い医師を育てることにより更に多くの患者さんの役に立ちたいと思います。

診療実績

年間入院患者数	4,716名
平均入院日数	4.0日
冠動脈造影検査数	2,846件
冠動脈造影CT件数	1,143件
PCI総件数	1,145件
PTA件数	278件
ペースメーカー植え込み件数	201件
カテーテルアブレーション件数	508件

業績

齋藤 滋

(1) 論文発表

1. Kimura T, Kozuma K, Tanabe K, Nakamura S, Yamane M, Muramatsu T, Saito S, Yajima J, Hagiwara N, Mitsudo K, Popma JJ, Serruys PW, Onuma Y, Ying S, Cao S, Staehr P, Cheong WF, Kusano H, Stone GW; ABSORB Japan Investigators. A randomized trial evaluating everolimus-eluting Absorb bioresorbable scaffolds vs. everolimus-eluting metallic stents in patients with coronary artery disease: ABSORB Japan. Eur Heart J. 2015 Dec 14;36(47):3332-42.
2. Nishikawa M, Isshiki T, Kimura T, Ogawa H, Yokoi H, Miyazaki S, Ikeda Y, Nakamura M, Takita A, Saito S; PRASFIT-ACS (PRASugrel compared with clopidogrel For Japanese patients with Acute Coronary Syndrome undergoing percutaneous coronary intervention) Investigators. No association between on-treatment platelet reactivity and bleeding events following percutaneous coronary intervention and antiplatelet therapy: A post hoc analysis. Thromb Res. 2015 Nov;136(5):947-54.
3. Tanaka Y, Tanaka M, Saito S. Elective valve-in-valve

-
- implantation for migration of a Corevalve in a patient with bicuspid aortic valve stenosis. *Catheter Cardiovasc Interv.* 2015 Aug;86(2):334-8.
4. Suenaga H, Murakami M, Tani T, Saito S. Frequent neurally mediated reflex syncope in a young patient with dextrocardia: Efficacy of catheter ablation of the superior vena cava-aorta ganglionated plexus. *J Arrhythm.* 2015 Jun;31(3):172-6.
 5. Papafaklis MI, Takahashi S, Antoniadis AP, Coskun AU, Tsuda M, Mizuno S, Andreou I, Nakamura S, Makita Y, Hirohata A, Saito S, Feldman CL, Stone PH. Effect of the local hemodynamic environment on the de novo development and progression of eccentric coronary atherosclerosis in humans: insights from PREDICTION. *Atherosclerosis.* 2015 May;240(1):205-11.
 6. Kereiakes DJ, Meredith IT, Windecker S, Lee Jobe R, Mehta SR, Sarembock IJ, Feldman RL, Stein B, Dubois C, Grady T, Saito S, Kimura T, Christen T, Allocco DJ, Dawkins KD. Efficacy and safety of a novel bioabsorbable polymer-coated, everolimus-eluting coronary stent: the EVOLVE II Randomized Trial. *Circ Cardiovasc Interv.* 2015 Apr;8(4).
 7. Nakamura M, Isshiki T, Kimura T, Ogawa H, Yokoi H, Nanto S, Takayama M, Kitagawa K, Ikeda Y, Saito S. Optimal cutoff value of P2Y12 reaction units to prevent major adverse cardiovascular events in the acute periprocedural period: post-hoc analysis of the randomized PRASFIT-ACS study. *Int J Cardiol.* 2015 Mar 1;182:541-8.
 8. Imori Y, Akasaka T, Shishido K, Ochiai T, Tobita K, Yamanaka F, Mizuno S, Saito S. Prehospital Transfer Pathway and Mortality in Patients Undergoing Primary Percutaneous Coronary Intervention. *Circ J.* 2015;79(9):2000-8.
 9. Saito S, Isshiki T, Kimura T, Ogawa H, Yokoi H, Nishikawa M, Miyazaki S, Tanaka Y, Nakamura M; PRASFIT-ACS and PRASFIT-Elective Investigators. Impact of Arterial Access Route on Bleeding Complications in Japanese Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention- Insight From the PRASFIT Trial. *Circ J.* 2015;79(9):1928-37.
 10. Saito S, Maehara A, Vlachojannis GJ, Parise H, Mehran R; RESOLUTE Japan Investigators. Clinical and angiographic evaluation of the resolute zotarolimus-eluting coronary stent in Japanese patients – long-term outcome in the RESOLUTE Japan and RESOLUTE Japan small vessel study. *Circ J.* 2015;79(1):96-103.
 11. Noriaki Moriyama, Takahiro Ohara, Hideaki Kanzaki et al. Active cardiac sarcoidosis.in a patient with adult-onset Kawasaki disease. *J Cardiology cases.* September 2015, Volume 12, Issue 3, Pages 68-71
- (2) 学会発表とその他講演など
日本国内外で講演，座長，オペレータ多数にて省略
- 高橋 佐枝子
- (1) 学会発表
1. The Effect of Endothelial Shear Stress on Stent Edge Restenosis 2015 ACC March 14-17 San Diego 2015 JCS April24-26 Sendai
- (2) 講演その他
1. Commentator 2015 SCJ Annual Meeting, Shinagawa, April10-12
 2. Chair J-WINC@CVIT私の英語勉強法 CVIT 2015, Fukuoka, July 30-Aug 1
-

田中 穰

(1) 講演その他

1. Lecturer, the 2nd Wakayama Stroke Seminar, Wakayama.
2. Lecturer, Japan-UAE Medical Seminar, Abu Dhabi, UAE.

山中 太

(1) 学会発表

1. Regression of Left Ventricular Mass after Transcatheter Aortic Valve Implantation in Patients with Aortic Valve Stenosis. (The 24rd Annual Meeting of the Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics: July 30, 2015: Fukuoka, Japan)
2. A New Imaging Method for Percutaneous Coronary Intervention of Chronic Total Occlusions: Real Time Cardiac Computed Tomography and Coronary Angiography Image Registration. (the American College of Cardiology 64th Annual Scientific Session and TCT@ACC-i2, March 15, 2015, San Diego, CA, USA.)

宍戸 晃基

(1) 学会発表

1. Comparison of Mid-term Clinical Outcomes between Bioresorbable Vascular Scaffold and Everolimus-Eluting Stent Implantation in Japanese Patients 2015 JCS April 24 - 26; Osaka
2. Comparison of Long-term Outcomes between Bioresorbable Vascular Scaffold and Everolimus-Eluting Stent in Japanese 2015 CVIT July 30 - August 1; Fukuoka

飛田 一樹

(1) 学会発表

1. RAAS Inhibitor Reduces Stroke Following Acute Myocardial Infarction Patients Taking β -blocker 第24回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (2015/7/30~8/1)

2. 抗リン脂質抗体症候群の末梢塞栓に難渋した一症例
第9回JPR研究会(2015/10/3)

高田 卓磨

(1) 学会発表

1. 「Buddy wire techniqueを用いてmicro catheterを進めることでRotablatorに成功した高度石灰化病変の一例」
第92回神奈川県PTCA研究会 学術集会